

中国人日本語学習者の複合動詞習得に関する認知的考察: 「～出す」、「～込む」を例として

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/42640

中国人日本語学習者の複合動詞習得に関する認知的考察
——「～出す」、「～込む」を例として——

張 麗虹 (北京師範大學)

leco916@163.com

要旨:本研究は認知的アプローチから、語彙的複合動詞「～出す」、「～込む」に関する中国人日本語学習者の習得状況を考察する。認知類型論と認知意味論に基づき、「～出す」、「～込む」とそれに対応する中国語表現の認知的差異を明らかにするうえで、中国人日本語学習者の複合動詞習得における概念転移のメカニズムを考察した結果、「～出す」、「～込む」の移動的意味の習得には主に正の転移が観察され、非移動的意味の習得には容器メタファーを通しての意味拡張が中国語にも日本語にも重要な役割を果たすので、日本語複合動詞の概念理解で正の転移が見られた。しかし、中国語と日本語の意味拡張には概念領域の違いや認知的な動機づけの違いも存在するので負の転移も生起することが分かった。

キーワード:複合動詞 習得 認知 概念転移

0. はじめに

近年、認知言語学とバイリンガル研究が進展を遂げつつある中、英語習得研究においては一連の「概念転移」と呼ばれる研究が出てきており、概念のレベルで母語転移の影響を研究しようとする傾向が強まり、母語転移の研究に新たな視点を与えている。中国国内でも王忻(2011)のように認知的な視点から誤用分析を行い、刘晓华、黄一峰(2013)のようにカテゴリー理論¹を活用し、日本語教科書における条件文の扱い方を提案するなど、認知言語学のアプローチで日本語習得状況を分析し、日本語教育に還元しようとする動向が見られる。本

¹ カテゴリー理論については参考文献 [10] を参照されたい。

研究は認知類型論と認知意味論のアプローチから中国人日本語学習者の複合動詞習得状況を考察し、複合動詞習得における概念転移の現象を解釈することを目的とする。

1. 研究方法

本研究は、Dataholder for CJData コーパス²からの語彙的複合動詞「～出す」、「～込む」を分析対象とする。このコーパスは日本人中国語学習者と中国人日本語学習者の作文と母語対訳文を収集したもので、作文のテーマが一致し、バランスが良いので習得研究のデータとしては理想的である。分析を行う際には日本語の NINJAL-LWP for BCCWJ³及び中国語の CCL コーパス⁴の統計データと例文を参考に使用する。

まず、Dataholder for CJData コーパスから 76 名日本語学習者の 374 篇日本語作文と中国語対訳作文及び 80 名日本語母語話者の 398 篇中国語作文と日本語対訳作文を抽出し、それぞれの日本語複合動詞使用総数、後項動詞の延べ語数と異なり語数の上位 10 項目を統計した。本研究では、使用頻度が高く、しかも対義語関係にある「～出す」、「～込む」を例にして、中国語と日本語の認知的差異を分析し、中国人日本語学習者の概念転移現象とその原因を探求していく。概念転移であるか否かの判断は張会平、刘永兵（2013）の方法を参照する。つまり、複合動詞の習得状況と誤用の傾向が対応する中国語使用傾向と非常に似ていて、しかも、概念レベルで中国語の概念特徴の転移が顕著な場合は概念転移によるものだと推測できる。

² このコーパスは日本学術振興会研究プロジェクト「外国語上級学習者における中間言語の研究」の研究成果の一部で研究者の同意を得たうえで利用させていた。 (課題番号：24520612 課題代表者：大滝幸子)

³ 日本国立国語研究所と Lago 言語研究所が共同開発したオンライン検索システムである。詳しくは <http://nlb.ninjal.ac.jp/> を参照されたい。

⁴ 北京大学汉语语言学研究中心が開発したもので、http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai で一般公開されている。

2. 日本語学習者複合動詞習得状況

2.1 総合的使用状況

Dataholder for CIData コーパスから抽出した作文の中で、日本語学習者の複合動詞使用総数は 389 語、異なり語数は 203 語である。それに対し、母語話者の複合動詞使用総数は 362 語、異なり語数は 194 語である。上位 10 位の後項動詞の延べ語数と異なり語数は表 1、表 2 に示す。

表 1.後項動詞上位 10 項目（日本語学習者）

	延べ語数		異なり語数	
	1	～合う	61	～合う
2	～出す	48	～出す	17
3	～付ける	31	～始める	12
4	～込む	21	～込む	11
5	～上げる	18	～上げる	11
6	～掛ける	15	～付ける	9
7	～始める	14	～取る	8
8	～取る	13	～上がる	6
9	～会う	9	～切る	6
10	～育つ	8	～掛ける	5
総計	238		105	

表 2.後項動詞上位 10 項目（日本語母語話者）

	延べ語数		異なり語数	
	1	～合う	40	～合う
2	～出す	29	～出す	13
3	～掛ける	20	～込む	13
4	～込む	18	～切る	9
5	～付ける	14	～続ける	7

中国人日本語学習者の複合動詞習得に関する認知的考察

6	～会う	14	～上げる	6
7	～上げる	12	～入れる	6
8	～入れる	11	～取る	6
9	～切る	11	～掛ける	5
10	～取る	10	～始める	5
総計	179		94	

表1と表2から見られるように、複合動詞の後項動詞の延べ語数と異なり語数が上位5項目を占めるものに、「～合う」、「～出す」、「～込む」の三種類が共通している。本研究が対義語の関係にある「～出す」と「～込む」を分析対象とし、学習者の複合動詞使用状況を考察する。「～出す」、「～込む」が生産性の高い複合動詞として多義構造を持っていて、実際の移動を表すほか、抽象的領域においても拡張的意味を持つことが多い。移動的意味と非移動的意味の概念形成がお互いに関連しあっているが、松本・田中(1997)が分析したように、移動複合動詞がいくつかの移動要素によって組み合わせられ、また、山梨(1995)が複合動詞の多義的意味拡張が基本的にメタファーなどの認知的操作によって動機づけられると説明した。概念理解のレベルにおいては複合動詞の移動的意味と非移動的意味の性質が違っていると考えられている。本研究はそれにしたがって、複合動詞を移動的意味と非移動的意味に分けて、認知類型論と認知意味論の角度から、非移動的意味の分析に重点を置きながら、学習者の複合動詞習得状況を考察する。産出文の正誤判別はまず二名の日本語母語話者から判別してもらい、意見の分かれるところはもう一名の日本語母語話者に判別してもらい、その結果を最後の結果として見なす。「～出す」と「～込む」の正用率を以下の図のように示す。

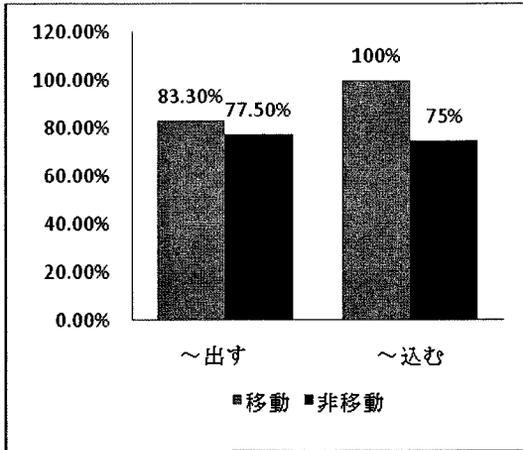


図 1. 「～出す」、「～込む」の正用率

コーパスから抽出された作文のうち、語彙的複合動詞「～出す」が 46 語あり、移動的意味の「～出す」6 語と非移動的意味の「～出す」40 語を含む。語彙的複合動詞「～込む」が 21 語あり、移動意味の「～込む」5 語と非移動意味の「～込む」16 語を含む。図 1 のように、灰色の部分が発動的意味の正用率を代表し、黒色の部分が発動的意味の正用率を代表する。移動的意味の総数は少ないが傾向としては正用率が非移動的意味より高い。以下では、移動的意味の習得について分析していく。

2.2 「～出す」、「～込む」の移動的意味の習得分析

姫野 (1999) は語彙的複合動詞「～出す」の意味を「外部、前面、表面への移動」、「表だった場への出現」、「顕在化」の三種類に分け、「～込む」の意味を「内部移動」、「程度進行」と分けている。本節において、「～出す」と「～込む」の移動用法の習得状況を、さらに具体的移動と抽象的移動に分けて考察する。

2.2.1. 具体的移動の場合

移動複合動詞の習得状況を分析するにはまず認知類型論の立場から移動を構成する諸要素について簡単に紹介しておく必要がある。移動を構成する諸要素として、因、地、経路、移動、様態、原因などがある。Talmy (2000) は、経路という要素が動詞で表現されるかそれとも付加詞で表現されるかによって、世界の諸言語を付随要素枠付け言語と動詞枠付け言語に二分類している。日本語が前者に属し、中国語が後者に属していると考えられている。移動複合動詞には移動の要素である様態、原因、経路などが含まれ、多様な組み合わせパターンが存在する。移動要素の組み合わせパターンにおける中国語と日本語の異同は概念転移が起こる原因だと考えられる。学習者の「～出す」の移動複合動詞の産出例の原文を見てみよう。

例 1. (○) ある日、母の再婚相手塩見を紹介されるが、母の恋人を認めたくない未歩はその場から逃げ出してしまう。/有一天，妈妈介绍自己的再婚对象盐见给未步，无法接受盐见的未步逃了出来。(中国人日本語学習者 01)

例 1 の日本語複合動詞正用例「逃げ出す」が様態＋経路の移動要素が組み合わせられ、それに対応する中国語“逃了出来”も様態＋経路の移動概念を含む。このような場合、日本語と対応する中国語表現は移動概念の組み合わせパターンが一致し、正の概念転移が起きやすい。

例 2. (○) 虎門砲台の総兵の関天培は開戦する前に、自分の歯を抜き取り、侍従に先祖代々の墓へ持ち帰らせて、全部の身代を取り出し、それによって全軍が必死に守るように激励する。/虎门炮台的总兵关天培在开战前，拔下自己的牙齿，让侍从带回祖坟，取出全部家产，用以激励全军战守。(中国人日本語学習者 02)

例 3. (○) 映画の最後は、昔から自分のことしか考えていなかった桃子はイチゴを救うために、一人で暴走族団体に入り、イチゴを助け出した。/在电影的最后，一直以来只考虑自己的桃子为了救イチゴ，一个人闯入飞车党团，救出了イチゴ。(中国人日本語学習者 03)

例 4. (○) 伝説では、春節は鬼を追い出すための行事だから、十二時になると爆竹を鳴らす伝統もある。/传说中，春节是人们为了驱赶鬼才有的节日，所以有十二点放鞭炮的习俗。(中国人日本語学習者 04)

例 2、3 の日本語複合動詞正用例「取り出す」、「助け出す」とそれに対応する中国語“取出”、“救出”が手段＋経路の移動要素が組み合わされる点で共通する。例 4 の「追い出す」も手段＋経路の移動要素が組み合わされ、対応する中国語“驱赶”は手段＋手段の要素の組み合わせであるが、動詞“驱赶”の自然な結果として手段＋経路の“趕出”を使う可能性があるので、経路の変化に言及する「追い出す」を産出しても不思議ではない。

次に、学習者による「～込む」の移動用法の産出例の原文を見てみよう。

例 5. (○) ある嵐の夜、真っ暗闇の山小屋に逃げ込んだヤギのメイ。/一个暴风雨的夜晚，逃进一间漆黑的小屋的小山羊—メイ。(中国人日本語学習者 05)

例 6. (○) そこへ同じように小屋に逃げ込んできたオオカミのガブ。/同样闯进那间小屋的狼——ガブ。(中国人日本語学習者 05)

例 7. (○) ミャンマーのコーカン地区で相次いで武装勢力の衝突が起きたため、数多くのミャンマー避難民が中国に流れ込んだ。/近日，缅甸果敢地区相继发生多起武装冲突事件，导致众多边民涌入我国境内。(中国人日本語学習者 06)

ここで例 5、6 の「逃げ込む」、例 7 の「流れ込む」はそれぞれ中国語の“逃进”、“闯进”、“涌入”と対応している。日本語も中国語も状態＋経路のように組み合わされている。もちろん、後項動詞「込む」と方向補語“进”、“入”は文法的役割には差異があるが経路という移動の概念を表すのが共通していて、「～込む」の習得における正の転移が起こる。

2.2.2. 抽象的移動の場合

認知意味論の観点からみれば、言語というものは人間が客観世界との相互作用によって、外部世界を概念化した結果である。日常言語の概念構造は外部世界の知覚、経験を基盤とする様々なイメージ・スキーマによって動機付けられており、具体から抽象へ意味を拡張させていく。イメージ・スキーマの一つとして容器のスキーマが存在し、「～出す」、「～込む」の意味拡張がその典型例である。一方、学習者が言語を産出するとき、「概念化」、「形式化」、「発音」という三つのプロセスを経なければならない⁵。そのため、母語と目標言語の概念特徴における異同が目標言語の習得に影響をもたらす可能性が存在する。日本語の移動意味を表す「～出す」が普通閉じた空間から開いた空間への移動を表し、中国語の移動の意味を表す動補式“～出”と同じイメージ・スキーマを共有する。日本語の「～込む」も中国語の“～进/入”と移動意味においてイメージ・スキーマを共有するので3.2.1で分析したように、「～出す」、「～込む」の移動意味の習得では正の転移が起きやすい。しかし、抽象的移動の意味を表す「～出す」と“～出”、「～込む」と“～进/入”の意味拡張の動機づけと意味領域が違う場合があるので、負の概念転移も観察される。

2.2.2.1「～出す」について

姫野(1999)は語彙的複合動詞「～出す」の意味を「外部、前面、表面への移動」、「表だった場への出現」、「顕在化」の三種類に分けた。それと対応するものとして、中国語の動補式“～出”がある。刘月华(1998)は“～出”の意味を“趋向意义”と“结果意义”に分けた。“趋向意义”は移動の意味を表し、“结果意义”は“从隐到显”、“从无到有”の意味の二種類に分けられる。今回、学習者が産出する例文の中に、抽象的な移動と顕在化の意味を表す「～出す」が多く見られる。以下は抽象的な移動用法の例である。

⁵俞理明、常辉、姜孟(2012)から引用するもので、言語産出モデルの詳細は Levelt(1989)を参照されたい。

例 8. (○) 現在、金融危機は中日経済交流にマイナスな影響を与え、去年から、いくつかの日係企業は中国市場から抜け出したのも事実である。しかし、それはただ一時の現象だと思っている。一旦金融危機から脱したら、中日経済関係は再び熱くなるのでわないでしょうか。/ 在全球性经济危机的影响下，去年起，不少日本企业减少甚至撤出在中方的投资，但这仅是暂时性的现象，一旦度过危机，中日两国的经济协作又将渐入佳境。(中国人日本語学習者 06)

例 8 は日本語の「～出す」も中国語の“～出”も容器のメタファーを働かせて、市場を一種の容器とみなすことで共通し、抽象的な移動を表す。

一方、日本語の「～出す」と中国語の“～出”の意味拡張の領域の違いによる誤用も見られた。

例 9. (×) 世界平和といえば、頭の中からすぐ2つの語“戦争、オリンピック”が飛び出した。/ 说到世界和平脑袋里一下跳出了两个词：战争，奥运。(中国人日本語学習者 02)

“脑袋里一下跳出了两个词”は適格な中国語の文である。CCL コーパスを検索すると類似する文が多く見られる。例えば：

例 10. 我想从中理出一条主线，脑海里突然跳出三个字：中国结。(CCL)

例 11. “爱就是行动”——他的脑海里突然跳出雨果这句名言。(CCL)

例 12. 比如我们说一个著名的品牌，麦当劳，大家恐怕脑袋瓜里立刻就蹦出来一个大 M，那是它的企业形象可识别标志，那么那是死的，那是物，物有的时候它是要人去管的。(CCL)

しかし、NINJAL-LWP for BCCWJ を用い、「飛び出す」に関するコロケーションの統計結果を見ると、「～が飛び出す」、「～から飛び出す」のコロケーションパターン数上位三項目は以下の表のようになる。

表 3. 「～が飛び出す」、「～から飛び出す」コロケーション上位三項目

～が飛び出す		～から飛び出す	
[人名] ⁶	44	口	58
言葉	36	なか	30
心臓	21	窓	15

「頭から飛び出す」の例は一例しか見当たらない。「言葉が飛び出す」の 36 例のうち、「口から言葉が飛び出す」が 22 例あった。そのため、「言葉が飛び出す」の例がほとんど発話行為に使用され、「頭から飛び出す」というような表現が日本語において非典型的な表現であることが分かった。中国語の“～出”、日本語の「～出す」はここで同じ概念メタファーを用いても、概念領域が違っているため、中国語の“跳出”の概念領域を日本語に適用させると負の転移が起こる。

2. 2. 2. 2「～込む」について

王(2012)が、認知意味論の観点に基づいて、「～込む」の意味を以下の四つのグループに分け、中国語の動補式“～進/入”の意味と比較した。

I. 内部への移動を表す

①物理的な内部移動を表す：運び込む、担ぎ込む、差し込む、押し込む、巻き込む

②抽象的内部移動を表す：巻き込む、押し込む、落ち込む、溶け込む、追い込む

II. 程度進行を表す：考え込む、思い込む、決め込む、老け込む、信じ込む

III. 前項動詞の動作が長く続くことを表す：座り込む、黙り込む、走り込む、鍛え込む、泳ぎ込む

IV. 前項動詞の動作や行為の量の多さ(過度)を強調する：着込む、立て込む、使い込む、買い込む

⁶ ここで [人名] は人の名前の総称を代表する。具体的な文においては名前それぞれ違うがコロケーションとしては同じ種類のものとして扱われている。

王(2012)が意味Ⅰを表すとき、「～込む」は中国語の動補式“～进/入”と対応しているが、意味Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを“～进/入”が持っていないため、両者は完全に対応していないと分析した。しかも、意味拡張において、日本語の複合動詞「～込む」はメタファーとメトニミーを経て、意味の拡張を実現させているが、中国語の“～进/入”はメトニミーによる意味拡張に欠けていると指摘した。「～込む」の習得における意味理解がどうなるかは具体的な学習者産出例を見よう。

- 例 13. (○) そんな多様な不幸な境遇を体験した後、彼女は絶望に落ち込んでいる。/在经历了这么多不幸的遭遇之后，松子陷入了绝望，唯一的精神支柱也失去了。(中国人日本語学習者 10)
- 例 14. (○) テロや紛争、内戦は多民族を抱える国を悩ませる共通の問題ですが、最近では、個々の国の問題ではなく、世界を巻き込むものになってきました。/恐怖主义，动乱，内战是多名族国家共有的烦恼。最近，不只是个别国家，整个世界都被席卷进来。(中国人日本語学習者 11)
- 例 15. (○) 無辜の民衆を戦渦に巻き込むことは残酷なことだと思います。お互いにの愛こそ平和を導きます。/把无辜的民众卷入战争的漩涡中是很残酷的事情。只有爱能带来和平。(中国人日本語学習者 12)

例 13 の「落ち込む」、例 14 と 15 の「巻き込む」がそれぞれ下線部の中国語“陷入”、“席卷进来”、“卷入”と対応している。ここで日本語の「～込む」も、中国語の“～进/入”も容器のメタファーを通して、抽象的な移動を表す点で共通するので正の概念転移が起こりうる。

2.2.2.3. 「踏み出す」、「踏み込む」の抽象的な時間移動

今回抽出された例文のなかに以下のようなものがある。

- 例 16. (?) 中国は長い侵略される時間をかかって、やっと新しい時代に踏み込んだ。/中国在经历了漫长的被侵略的历史后，终于开始步入了自己的新时代。(中国人日本語学習者 15)

興味深いことに、コーパスから、日本語母語話者が書いた中国語作文と母語訳には以下のようなものが見られた。

例 17. (×) 过年是回顾去年的自己, 跟家人, 亲属或朋友一起迈出新年的重要的仪式。/お正月は家族、親族、旧友と一緒に過ごし、前年の自分を振り返り、新たな年に踏み出す大切な行事である。(日本人中国語学習者 1)

例 16 と 17 の複合動詞「踏み込む」、「踏み出す」はここで空間の意味から時間の意味へ拡張させていく。「新しい時代に踏み込む」より「新しい時代に踏み出す」のほうが落ち着く⁷。中国語の“歩入了自己的新时代”は適格であるが、“迈出”は起点と共起するのが一般的で“迈出新年”は中国語にない表現である。

さらに、抽象的な移動を表すとき、「踏み出す」、「踏み込む」の共起する前項名詞を観察すると評価的意味においては「踏み出す」と「踏み込む」は異なる傾向を呈する。NINJAL-LWP for BCCWJ の「踏み出す」、「踏み込む」及び CCL コーパスの“歩入”、“迈进”に関するコロケーションを見ると、評価的意味において、以下の分布が観察される。

表 4. 評価的意味を持つ「～に踏み出す」、「～に踏み込む」のコロケーション

大改革、再建、改革、 飛躍、創業、整備、展開	～に踏み出す
新しい世界、新たな道 問題、対立、公債、迷路、葛藤	～に踏み込む

⁷日本語母語話者 3 名から適切性の判断をしていただいたものである。

表 5. 評価の意味を持つ“迈进”、“步入”のコロケーション

迈进	强国、理想、小康、辉煌、 新的时期、新的阶段、崭新篇章
步入	新的阶段、振兴阶段、良性循环、 正轨、复苏之路
	误区、歧途、死胡同、低谷

「踏み出す」、「迈进」、「步入」は望ましい意味で用いられるコロケーションが多いのに対し、「踏み込む」は望ましくない意味拡張を多く持ち、新しいものに関する表現が二種類しかない。“步入”は「踏み出す」と“迈进”と違って、マイナス評価の意味も、プラス評価の意味も有する。

なぜ「踏み出す」と「踏み込む」が評価的な意味においてこのような差が出るのであろう。周知のように「踏み出す」と「踏み込む」の最も一般的な意味は空間移動の意味であり、普通「踏み出す」が起点と共起し、「踏み込む」が終点と共起する。しかし、例 16 と例 17 を見るといずれも「に」という着点が暗示される表現である。実際の空間移動の例を見ると、「踏み出す」も着点と共起する用法が存在する。

例えば：

例 18. 彼はドアを開け、バドは廊下に踏みだした。(BCCWJ)

例 19. 大きく一呼吸した私は、思い切って庫裏の玄関に一步を踏み出しました。

(BCCWJ)

「踏み込む」はもちろん空間移動着点表現に使用される。では、なぜ「踏み込む」が存在するにもかかわらず、もともと起点表現に使用される「踏み出す」も着点表現に使用するのであろうか。「踏み込む」と「踏み出す」の着点表現がどのような区別と関連があり、ひいては、評価の意味への拡張の背後にどのような認知的動機が潜んでいるのであろうか。

「踏み込む」と「踏み出す」の移動用法の例文を分析すると、両者の着点の空間的性質において、「踏み出す」は開放的空間への移動を表し、「踏み込む」は閉鎖的空間への移動を暗示させる傾向が観察される。この推論を検証するために、筆者が NINJAL-LWP for BCCWJ のなかから方向あるいは着点を表す「に」、「へ」、「まで」と共起する「踏み出す」、「踏み込む」の移動表現用例を抽出した。さらに、「に」、「へ」、「まで」の前接する名詞の空間的性質が開放的であるか、閉鎖的であるかの判断を行う。空間的性質の判定基準は認知言語学の容器スキーマの理論を参考にする。Lakoff(1987)は容器スキーマの構造要素として「内部」、「境界」、「外部」の三要素があるとし、これに基づき本研究は内から外への移動が開放的空間への移動とし、外から内への移動が閉鎖的空間への移動であると認定する。分析結果は以下の表のように示す。

表 6. 「踏み出す」の空間的性質

	～に踏み 出す	～まで踏 み出す	～へ踏み 出す	合計
頻度	179	2	65	246
空間移動	77	0	30	107
閉鎖的空間	2	0	2	4 (3.7%)
開放的空間	20	0	8	28 (26.2%)

表 7. 「踏み込む」の空間的性質

	～に踏み 込む	～まで踏 み込む	～へ踏み 込む	合計
頻度	394	50	43	487
空間移動	134	2	28	160
閉鎖的空間	73	2	17	92 (57.5%)
開放的空間	1	0	0	1 (0.64%)

「踏み出す」、「踏み込む」の空間移動表現のなかで「～前に／横に／ほうに踏み出す」、「～左に／方向に踏み込む」のような方向指向の移動表現、起点の空間的性質が不明で、顕著な空間転換が見られない例文が多くある。結果として、「踏み出す」が開放的空間への移動を表す用法が 26.2%を占め、閉鎖的空間への移動が 3.7%を占めている。

「踏み込む」の方はわずか 0.64%の表現のみ開放的空間への移動と関わり、57.5%の表現が閉鎖的空間への移動である。このように、「踏み出す」、「踏み込む」と共起する着点の空間的性質の差異が明らかになる。

では、「踏み出す」と「踏み込む」が評価的な意味においてなぜ差が出るかという最初の問題に立ち戻ろう。われわれの生活経験から考えると、開放的な空間が心の状態に解放的な心地よい感じを与え、閉鎖的空間が不快を引き起こす原因となるときが多いというのは日常生活によく体験することである。深田・仲本(2008)にはこのような例がある。「四季の変化に富む日本で我々は新芽の香りに爽快感を感じたり、枯葉を踏む音に寂しさを感じたりする。」人間は視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の五感によって客観世界を知覚する。世界を知覚することで、人間の気分や感情の反応も引き起こされる。この意味で、人間は視覚などの刺激より、開放的空間に対し、よい気分感覚が喚起される。開放的空間の性質をもつ「踏み出す」が抽象的な移動の表現に用いられると評価の意味を持つ前項名詞と共起しやすくなり、閉鎖的空間の性質を持つ「踏み込む」はその相反する方向へ意味を拡張させていくと解釈できる。こういう認知的心理に基づき、さらに容器メタファーを働かせ、開放的空間性質を持つ「踏み出す」が望ましい意味に用いられ、閉鎖的空間性質を持つ「踏み込む」が望ましくない意味拡張を持つようになるのも納得ができる。

このような考え方を中国語の“迈进”、“步入”に適用しても解釈できる。中国語の“迈进”が抽象的な意味において固定した用法が多く、好ましくない意味に使用する例が見られないが、“步入”の空間移動用法の着点が開放的な空間である場合も、閉鎖的空間である場合も可

能であるため、表5に示すように評価的意味においては両方が存在する。

“迈进”、“步入”と「踏み出す」、「踏み込む」のこのような移動事象における空間的性質及び評価的意味拡張の差異が存在するゆえに、中国人日本語学習者が例21の文を産出したのであろう。

ここまで見てきたように、移動複合動詞「～出す」、「～込む」の習得では主に正の概念転移が観察される。もちろん、学習者コーパスによる考察だけでは移動複合動詞を使うべきところではほかのものを使ってしまうという回避の現象などの影響が避けられない。従って、移動複合動詞のなかにどんなものが産出しやすいか、どんなものが習得に困難さを伴うかについての更なる研究が必要だと思われ、それは今後の課題とする。

2.3 「～出す」、「～込む」の非移動的意味の習得分析

2.3.1 顕在化の「～出す」

今回、学習者が産出する例文の中に、顕在化の意味を表す「～出す」も多く見られた。例えば：

例20. (○) 日本の会社を迎えて、経済利益を創り出して、自国の経済能力をアップさせて、それは中国新型の開放的な経済政策です。/引入日本企业，创造出经济利益，使本国的经济得以发展，这就是中国新的开放的经济政策。

(中国人日本語学習者 07)

例21. (○) 日本の技術を使い、中国は毎日たくさんの商品を作り出し、また日本に輸出する。一方、日本も中国を商品の産地として、電子製品、食品、服などを作っている。/中国用日本技术制造出很多商品，再将其出口到日本。而一方面，日本也将中国作为产地，生产电子产品、食品和服装等。

(中国人日本語学習者 08)

例22. (○) 戦争のための技術開発が、今日の高度な技術を生み出す元になったのです。/服务于战争的技术开发，如今已经成为孕育高新技术的源泉。(中国人日本語学習者 09)

例 20、21 の「削り出す」、「作り出す」は顕在化の意味を表し、“从无到有”の意味を表す中国語の動補式“创造出”、“制造出”と対応する。

ここで、“～出”の前項動詞が製作、成長の意味で、“从无到有”の意味を表す場合は日本語の顕在化の意味を表す「～出す」とほとんど共通し、正用率が高く、正の転移が観察されたのである。

2.3.2 程度の「～込む」

2.2 のところで、移動の意味を表す「～込む」の習得には主に正の転移が観察される。しかし、以下の程度の意味を表す「～込む」の例文を見ると、状況が異なってくる。

例 23. (×) これは死亡を主題とする映画である。この前このような主題の映画を見たことはないの、直ちにこういう話題を目の前に投げてくると、思い込ませずにいられない。/这是一部以生死为主题的电影，之前从来没有看过类似主题的，所以当把这个话题直接摆在面前的时候，不得不让人陷入沉思。(中国人日本語学習者 13)

例 24. (×) いつも私は《1 リットルの涙》この映画を思い出し始めて、私は思い込んでいる。/每当我回忆起《一升的眼泪》这个故事，我都会陷入沉思之中。(中国人日本語学習者 14)

例 23、24 のように日本語複合動詞「思い込む」は程度進行の意味を表している。姫野 (1999) は程度進行の意味を表す「～こむ」の「こ」は「濃」であり、「凝」、「籠」、「混」にも通じ、前項動詞の意味特徴によって「固着化」、「濃密化」、「累積化」という三つのグループに分けている。ここで「思い込む」は容器メタファーの認知操作によって「中に入って固着する」の意味を実現させた。しかし、中国語の「陷入沉思」は容器メタファーのほかに、上下メタファーも働いているので日本語学習者が「思い込む」を理解するとき、母語の上下のメタファーと関連付けて理解する可能性があると考えられるので負の転移

が観察される。

3. まとめ

以上、本研究が複合動詞「～出す」、「～込む」の移動用法と非移動用法両面の習得を認知類型論と認知意味論の視点から考察し、学習者の意味理解を解釈し、概念転移の現象と原因について分析した。

「～出す」、「～込む」の移動用法の習得には主に正の転移が観察され、非移動用法の習得には容器メタファーを通しての意味拡張が中国語にも日本語にも重要な役割を果たすので、日本語複合動詞の概念理解で正の転移が見られた。しかし、中国語と日本語の意味拡張には概念領域の違いや認知的な動機づけの違いも存在するので負の転移も生起する。

今後は、より多くの複合動詞項目に触れ、多義的複合動詞の意味理解における概念転移の有無を考察し、転移が生じやすい項目と生じにくい項目を比較したいと思う。また、3.2のところでも述べたように、学習者コーパスによる考察だけでは回避などの現象が避けられないので、具体的なタスク実施の方法と併用して更なる研究が必要である。

本研究は言語形式から概念レベルまで転移の現象と原因を認知言語学の視点から分析したが、より厳密的な検証として、心理実験を行いイメージスキーマの心理的実在性を示す証拠があれば、説得力がさらに高まると考えられる。これも、習得研究において新しい一分野として期待されるであろう。

参考文献

- [1] 王忻. 認知言語学方法论对中国日语学习者偏误研究的启示[J]. 外语与外语教学, 2011. 01:66-69
- [2] 刘晓华; 黄一峰. 認知言語学視角下的日语条件句教材分析[J]. 日语学习与研究, 2013. 05:87-95
- [3] 姜孟. 概念迁移: 语言迁移研究的新进展[J]. 宁夏大学学报, 2010. 05:166-171

- [4] 俞理明、常辉、姜孟. 语言迁移研究新视角[M]. 上海交通大学出版社, 2012
- [5] 李锡江, 刘永兵. 从对比分析到概念迁移[J]. 东北师范大学学报, 2013. 01:101-104
- [6] Odlin, T. Crosslinguistic influence and conceptual transfer: What are the concepts?[J]. Annual Review of Applied Linguistics 2005. 25:3-25.
- [7] 田中茂範・松本曜. 日英語比較選書 6: 空間と移動の表現[M]. 研究社出版. 1997
- [8] 山梨正明. (1995). 認知文法論[M]. ひつじ書房
- [9] 姫野昌子. 複合動詞の構造と意味用法[M]. ひつじ書房. 1999
- [10] Talmy, L. Toward a Cognitive Semantics: Vol II: Topology and Process in Concept Structuring[M]. The MIT Press. 2000
- [11] 刘月华. 实用现代汉语语法[M]. 商务印书馆. 2001
- [12] 王秀英. 日本語の複合動詞「～こむ」類と中国語の複合動詞“--進/入”類との対照研究. [J]. 言語科学論集. 2012:73-84
- [13] ジョージ・レイコフ著、池上嘉彦、河上誓作、他訳. 認知意味論——言語から見た人間の心[M]. 紀伊國屋書店. 1993
- [14] 深田智・仲本康一郎. (2008). 概念化と意味の世界[M]. 研究社

謝辞: 本稿の執筆にあたり、翟東娜先生、吉田光演先生から大変有益なご指導をいただきました。学習者産出例の文法的判断の作業をしてくださった先生方、貴重なご助言をいただいた吉田研究室の皆様にも、心より感謝申し上げます。